

令和5年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」 結果について

学 校 教 育 課

平均点のみに依らない、個々の学力の伸びや非認知能力の変容を確かめられる新たな調査を導入

- 1 調査名称 京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～
- 2 調査目的 児童生徒の伸びや変容から、指導のポイント・課題を把握し、より効果的な指導を実現
- 3 調査対象 府内公立小・中・義務教育学校及び特別支援学校の小学校第4学年～中学校第3学年
(京都市除く)

【令和5年度受検者数（人）】

	小学校 第4学年	小学校 第5学年	小学校 第6学年	中学校 第1学年	中学校 第2学年	中学校 第3学年
国語	9,117	9,129	9,352	9,088	8,953	8,907
算数・数学	9,108	9,130	9,358	9,086	8,955	8,925
英語					8,948	8,915
実施校数	200	200	200	100	100	100

- 4 実施時期 令和5年5月15日（月）～19日（金） 中学校
5月22日（月）～26日（金） 小学校
- 5 調査内容 教科に関する調査 小学校第4学年～第6学年：国語、算数
中学校第1学年：国語、数学（算数）
中学校第2、第3学年：国語、数学、英語
質問調査 生活状況、非認知能力、学習への取り組み方等、ICT利活用に関連する調査
- 6 調査の特徴＜IRT×CBT方式＞ **全府実施では全国初**
 - (1) 教科に関する調査及び項目反応理論【IRT (Item Response Theory)】を用いた学力の推定
 - ・異なる調査でも、調査結果を直接比較することができるIRTを用いることで、学力の伸びを確かめることが可能となる。
 - ＊上記のためには、「過去問題」の利用が必要であるため、出題問題は非公表
 - (2) 非認知能力や学習への取り組み方等を確かめられる質問調査
 - ・京都府教育振興プランに示す3つのはぐくみたい力*、学習への取り組み方等について、複数の質問項目を組み合わせることで測定
(*「主体的に学び考える力」、「多様な人とつながる力」、「新たな価値を生み出す力」)
 - (3) 調査方法 1人1台端末で出題及び解答【CBT (Computer Based Testing)】
- 7 返却する個人結果票：[個人結果票の見方 | 京都府教育委員会学校教育課 \(kyoto-be.ne.jp\)](https://kyoto-be.ne.jp)